



環境教育への取り組み、

～“ハイブリッド式マイクロ風力発電・太陽光発電装置”と

広島工業大学高等学校
校長 田中 彰

そして2大シンボルの完成

県内高校初“人工芝サッカー場・全天候型陸上競技場”～

環境教育への取り組み

本校の本格的な環境教育は平成10年度の「身のまわりの環境美化活動」から始まり、現在まで続いている。

① 分別収集

従来からあった焼却炉を撤去し、毎日教室内外から出るゴミの、生徒による分別収集・作業を徹底した。

② 広島市西部リサイクルプラザの見学

本校の南隣にあるこの施設を、1年生のときにクラス単位で見学する。館内で説明を聞いたり、職員による面倒なゴミの分別や資源の有効再利用を実際に目で見て、実感させ意識を喚起する。

③ 清掃ボランティア

毎週1回(H17年度は火曜日)、国道2号線沿いを、本校校門からJR五日市駅前までクラス毎に出掛けて行って、大きなゴミや空き缶からタバコの吸殻の小さなゴミまで拾い集めている。

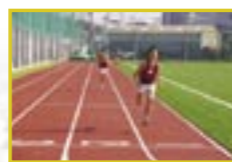
生徒の奉仕精神を育むだけでなく、継続していることで地域からは感謝され評価を受けている。



清掃ボランティア

④ 校内美化

教室内から廊下、階段、トイレにいたるまで、丁寧に清掃する指導を心掛けている。特に、外庭花壇の手入れは、季節毎に美しい花を咲かせる努力をし、春季のバラは毎年見事な花をつけ、近所からも見物に来られる状況である。「男子校の代名詞である、暗い・汚い・殺風景は本校にはあたらぬ」、外来者がよく言われる言葉である。



陸上



バラの花

⑤ 総合的な学習

平成14年度からとり入れた総合的な学習においては、上記に加えて、環境と人間(環境と私)をテーマに、クロスカリキュラム(教科横断型教育課程)の国語科から体育科の授業まで、全学年で地球にやさしい環境についての学習に取り組んでいる。

- 1) 廃油での石鹸づくり
- 2) 養蜂場の広告から地球環境の悪化を考える
- 3) 環境と健康
 - 大気汚染・地球温暖化 等
- 4) 身の回りの自然環境
 - 湖や沼
- 5) 新エネルギー
 - 化石燃料の有限性
- 6) 私たちの生活と環境問題
 - 自分の出すゴミとリサイクル
- 7) 環境問題を探求しよう
 - 森と原生林
- 8) 日本における四大公害等

環境教育の2大シンボル完成

本校は、昭和33年に広島電波工業高等学校としてこの井口でスタートし、広島工業大学附属工業高等学校から現在の広島工業大学高等学校と校名の変遷はあったものの、工業科・理工

科はずっと受け継がれてきていた。今年度(平成17年度)の卒業生をもって、その歴史は一旦閉じられる。工業科記念のモニュメントとして昨年9月、ハイブリッド式マイクロ風力発電・太陽光発電装置を南門入り口に設置した。次に詳しく紹介する同年11月に完成した人工芝サッカー場と全天候型トラックも加えて、本校の「環境教育」のシンボルとしたい。

人工芝・全天候型陸上競技場

完成までの工期は9月中旬から11月初旬までの2ヶ月間かからないものであった。今秋の好天に恵まれたこともあるが、日本道路株式会社様の工事努力によるものが大と理解し、感謝申し上げたい。その結果、授業とクラブ活動に与える影響は最小限に抑えられたと思う。



10月中旬の工事中の風景

芝は、ハイブリッド・ターフ(ゴムチップ入りロングパイル人工芝)で、県内では吉田サッカー公園にはられている人工芝と同じで、芝丈は65mmのものである。芝面積は10,074m²(約8,000m²のものが多く)と広大で、公認のサッカー場として使用される。

全天候型陸上競技場は芝の周囲に400mトラックを2コースとり、100mと110mハードルを5レーン敷き、三段跳び、走り幅跳び、棒高跳びのコースと走り高跳びと砲丸投げの練習場も確保した。

平成17年11月12日に新グラウンドの安全祈願祭と竣工式を行った。式は学園参与の熊谷啓司祭の進行で、施工会社、鶴理事長、理事、学園・学校教職員、生徒会長、サッカー部・陸上部主将そして近隣の方々をお招きし、厳かに進められた。



テープカット

当日は、前日の大雨から一転、快晴となった。理事長の号砲も軽やかに、陸上部の400mリレーのオープニングランに続いて、サンフレッチェ広島ユースと本校サッカー部の招待試合でグラウンド開きを行った。

前日の雨の影響でグラウンドコンディションを大変心配したが、陸上の400mトラックはもちろんサッカー場の隅々までも全く気にする必要がなかった。かえって好天気が続いた後より、コンディションは良いように思われた。使用初日から、人工芝と全天候型トラックの偉力を発揮することとなり、幸運な安全祈願祭と竣工式当日となった。

おわりに

この度、立派な人工芝サッカーグラウンド、全天候型陸上競技場をつくることができました。生徒たちがこれからの授業にクラブ活動に張り切る活力源になりました。

が、まず、近隣の方々や通行中のみなさまに砂ぼこりのご迷惑をお掛けしていたことの解消が何よりです。また、国道向かいの住宅の方々の迷惑ばかり気にしていましたが、高層マンションの方から、砂が上がってこなくなり、廊下や階段の掃除が楽になったと聞かされ、そんなところにも迷惑を掛けていたのだと再認識させられました。「上から見下す広大なグリーンの景色は見るのも楽しいし、心が安らぎます」との言葉も寄せられています。

鶴学園50周年を迎えて、この施設が本校だけのものではなく、学園全体で有効に活用できればと思います。



人工芝全景



風力・太陽光発電